

1. この会社が目指す姿が理解できるか

トプコンは、衣食住に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献すること、先端技術を用いて新たな価値を提供し続けること、多様性を尊重しグローバルカンパニーとして行動すること、コンプライアンスを遵守しすべてのステークホルダーから信頼されることを目標としている。統合報告書の最初のページに”TOPCON WAY”として経営理念、方針が明示されていたため、トプコンの目指す姿の概観を最初に容易に理解できた。報告書を読み進めると「トプコンの衣食住のビジネスとはなにか」「トプコン内における多様性とは何か」「なぜトプコンがグローバルカンパニーなのか」などがさらに具体的に書かれており、抽象から具体への流れが非常にわかりやすい。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

日本ではまだ普及していない、土木事業や農業の自動化がトプコンの主なビジネスである。土木事業や農業の自動化は、人手不足である日本で今後需要が増える分野であると思われるため、トプコンには大きな競争優位性があると言える。CEO である平野氏も、新型コロナウイルスにより一時的に売り上げは落ちたものの、再び社会が動き出すと業績はすぐに回復したため、トプコンの衣食住のビジネスは外部環境に左右されず人々の日常生活において常に強いニーズがあると断言している。しかしこの発言において、再び社会が動き出すと業績がどのように回復したのかが明確でない。既存のビジネスを推進し続けたのか、もしくはコロナ禍以前とは少し戦略を変えたのか、というように業績回復の要因となったコロナへの具体的な対応策が書かれていると、トプコンのビジネスへの強いニーズについて説得力がさらに増すと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

トプコンは現在売り上げの8割を海外であげているが、トプコンが推進する土木事業や農業のデジタル化、自動化は今後日本市場でも需要が高まるだろう。さらに、病院外の施設でも使用可能な眼科検診機械や、建築工場の工場化など、新たな分野への挑戦も続けており、測量機などの安定した事業からその投資資金を出すとしている。現在の事業、そして今後の事業共に国内外で需要を持つ事業であり、資金源も安定しているため、トプコンの競争優位性は持続可能であるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

トプコンは、社員等に学び成長する機会を平等に提供し、資質を最大限発揮することができる職場風土の実現を目指し、人材育成のために定期的に講義や研修を行っているとしている。そのためトプコンでは人的資本の価値向上を達成できると思われるが、どのような講義や研修なのかが不明確であるため、講義や研修の具体的な内容を掲載すればさらに説得力が増すだろう。女性の活躍推進や育休制度の普及、社員の安全や健康への対策などの取り組みを行っている点もよい。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

私が競争優位性について最も読み取ることができたのは CEO へのトップインタビューのページであった。しかし、統合報告書の目的の一つとして競争優位性を外部に示すという目的がある。そのため、競争優位性にかかわる自社製品の強みや今後開発を進める分野、開発資金の源泉を、価値創造プロセスのページなどに図とともに具体的に記載べきだと思う。